

子の育ての窓

鹿沼市家庭教育振興会

No.33

令和6年2月14日発行
鹿沼市教育委員会事務局生涯学習課
TEL 0289(63)3498
FAX 0289(63)8325



鹿沼市 HP 「家庭教育」

「いつの時代になっても」

鹿沼市家庭教育振興会副理事長
鹿沼市立東中学校長

湯澤 信

地域の会議に参加させていただいたときの話です。その日は、講師を招いての研修会も兼ねていました。テーマは、「地域の子どもたちにも、どんな大人になってもほしいか？」研修に入ると、40人前後の参加者を8グループ程に編成しての話合いが行われました。驚くことに、話し合いの結果が発表されると、どのグループも「あいさつのできる大人になってもほしい。」が上位を占めていました。

「子供たちからあいさつされると元気がでる。」「交通指導をしているときにあいさつされると、また、頑張ろうと思う。」「登校班にあいさつをしても元気がないので、班の子供たちに積極的にあいさつをしている。でも、小学生の娘から、恥ずかしいと言われてしまう。」「地域で必要なのは、つながりだと思う。そのためには、あいさつが大切だと思う。」「等々の意見を伺いました。

以前、小学校に勤務していたときにも、全校集会や始業式、終業式等には、いつもあいさつのお話をしました。東中学校に勤務してからも、生徒たちには、あいさつの大切さを伝え、あいさつの実践をお願いしています。生徒たちも、その期待

に込めようと、生徒会やリーダーズ（各クラスの学級委員で編成）が中心となってあいさつ運動を実施しています。部活動でも、大会やコンクールでしっかりとしたあいさつの実践が見られました。確実に成果は感じられますが、地域の方々の声や保護者の皆様の声に触れるたびに、定着には、日々の意識付けと実践が重要と考えます。

先日、教育実習生を受け入れた際にも、「職員や生徒たちにはしっかりとあいさつをしてほしい。」とお願いをしました。生徒たちにも話をして、「目を見て、笑顔で、自分から」を実践してほしいと伝えました。過日、実習生のあいさつ実践の感想を聞いた際に、『これまで、あいさつを意識したことは、ありませんでした。教える立場として、意識してあいさつしたときに、生徒たちから返ってくるあいさつをうれしく感じます。また、あいさつの様子で、「元気がないのかな?」「こちらの気持ち伝わってないのかな?』と考えることもあります。』との答えでした。教科の実習もさることながら、あいさつを通じた何気ない関わりからも、子供たちの日々の様子を感じ、教

師として得るもの、地域の先輩として、伝えていくもの等、多くのことを学んでほしいと思います。

いつの時代になっても、あいさつは、家庭や学校、地域に生活する中で、たしなみとして身につけておきたいものだとは思いますが、この文章を書いていて、以前あいさつを花にたとえた話をしたこと思い出しました。学校、家庭、地域にあいさつの花が咲き誇ることを私は、願っています。



東中 バラ園と校舎

親学習プログラム

就学時健康診断・入学説明会のおりに…

★鹿沼市内の小学校で実施（就学時健康診断・入学説明会のおりに実施 R5年度は11校で実施）
次年度に小学校へ入学する児童の保護者を対象に、実施しています。

★実施内容

参加型のワークショップで、保護者同士が知り合いになり、入学する子どものために学び合います。最初は少し緊張気味の表情も、交流が深まると笑顔に変わり、和やかな雰囲気の中でプログラムが進められます。話し合いを通し、お互いの悩みを共有し、共感し、親としての在り方や役割について考えたり整理したりするきっかけとなっています。入学の不安や心配も安心と希望に変わり、知り合いも増え、「明日からの子育てを頑張ろう！」というエネルギーチャージの時間になっているようです。

進行は家庭教育
オピニオンリーダーせせらぎ会
と親学習ボランティアの
みなさんです



家庭教育学級啓発講座

「親学習プログラム」の最後に市内小中学校で行われている「家庭教育学級」の活動の概要について資料を使って説明しています。

家庭教育支援活動に参加しませんか

鹿沼市家庭教育振興会では、県教委の専門研修を修了した皆さんに事業を行って頂いています。私たちと一緒に家庭教育支援事業を進めてみませんか？

研修① 家庭教育支援プログラム指導者研修

- ・内 容 保護者の学びを支える参加型学習プログラム「家庭教育支援プログラム」を実践するために必要な知識や技術の習得を目指します。
- ・実施期間 各年度5月～8月に5日間の研修（約月1日の実施）
- ・研修場所 栃木県総合教育センター

☆研修を修了した方々☆

主に小学校で行われる就学時健康診断での保護者向けのプログラムの実践活動を行っていたです。

研修② 家庭教育オピニオンリーダー研修

- ・内 容 家庭教育オピニオンリーダーの活動について学び、家庭教育支援の在り方を考えながら、地域に根差した家庭教育支援を行う上で必要な知識や技術の習得を目指します。
- ・実施期間 各年度8月～10月に6日間の研修（約月2日の実施）
- ・研修場所 主に栃木県総合教育センター

☆研修を修了した方々☆

鹿沼市のオピニオンリーダー「せせらぎ会」の一員として鹿沼市の家庭教育支援の活動を行っていただいています。

※興味のある方は、鹿沼市教育委員会事務局生涯学習課（☎0289-63-3498）までご連絡ください。

家庭教育講演会・子育て交流のつどい

「子育て交流のつどい」は、鹿沼市家庭教育振興会の主要事業の一つであり、主に、市内各家庭教育学級生やPTAなどの皆様を対象に、家庭教育の学びの場として毎年開催しています。



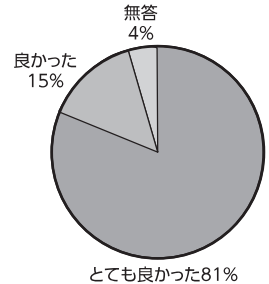
「ふれあいで子どもの心を育てる」

講師：明治大学教授 諸富祥彦 氏

令和5年7月8日(土)[参加者223名]
かぬまケーブルテレビホール大ホール

今年度は、諸富先生をお迎えして心理学の専門的な知見を通して見える、親子や夫婦の在り方など家族関係の理解についてお話をいただきました。また、ワークショップを交えながら楽しく進めていただきました。

講演会の内容



～参加者の感想から～

- 聞くだけの講演会だと思っていましたが、人としての大切なコミュニケーションを学びました。
- 毎日、イライラやカリカリしてしまっていて子供にも見せてしまっていることが多くあります。良くないとはわかっているけど、イライラしてしまっていたので、今後は頭を冷やすために外に出たりしたいと思います。ありがとうございました。
- 家庭の安定が子供の安定につながるということがとてもよくわかりました。
- 「子育てはなるようにしかならない」とても重いことばです。「なるようにしかならない」「不可能は可能にならない」もっと早く講演会を聞けばよかったと思いました。
- 母親が家にいることの大切さがわかりましたが、父親が子供に接するポイント、母親だけががんばるのでなく、夫婦の弱音のはける関係を子供に見せる大切さを知れてよかったです。
- 子供のためと思って子供にしてほしいことを言いがちでしたが、逆に子供がしてほしいことを汲み取って接することが、話をするにしても普段の生活環境でも大切ということを改めて考えさせられました。
- 私は教員なので職場では生徒に寄り添って話を聞けるのに、家では朝も夜も時間がなく、しっかり向き合えたり、寄り添ったりできていません。だめだと言われたことを全部しています。もっと心に余裕をもち、イライラしたら離れて接し、毎日笑顔で子供の幸せを願わなくてはいけないと思いました。



子育て・親育ち講座(スマイルクラブ)

3年間のサイクルで、市内全部の幼稚園、保育園、認定こども園等で実施され、施設ごとに工夫を凝らした学習会や体験活動等が行われています。今年度は「親子リズム遊び」や「親子で楽しむ陶芸教室」

「リフレッシュ・ヨガ」等の講座が実施されています。参加した皆さんにとってよりよい学びの機会となっています。



(写真は、板荷児童館)

子育てサロン

- ♡ポニー：毎月第1水曜日・北押原コミュニティセンター
- ♡ハートフル：毎月第3水曜日・東部台コミュニティセンター

保健師さんや子育てのベテランの方、子育て中の仲間と一緒に子育ての不安や悩みを解消！子育ての嬉しいヒントやアイデア等情報交換で盛り上がるひととき！コロナ対策をしっかり行ない、安全安心なサロンが開催されています。



(写真は、ポニー)

家庭教育学級の取組

笑顔の交流から得たもの

石川小学校家庭教育学級 大柿 綾奈

今年度のテーマである「心豊かな家庭環境」には、保護者の笑顔が必要不可欠であると考へ、参加者が楽しく笑顔になれる学習会を企画しました。

初回の学習会では、フェミニンケアについて学び、フェムケアオイルも作りました。子ども達の性教育にも触れ、学校でも教えてほしいなどの声もありました。正しいフェミニンケアを学び実践し、生理痛などが軽くなったという学級生もいたのには驚きました。

二回目の学習会では、キャンドルの歴史を学びアロマワックスカップを手作りしました。沢山のドライフラワーや装飾品から、完成をイメージし無心で材料を選んでいる時や、製作中に時間の共有と交流ができ、癒しの時間にもなりました。



手作りアロマワックスカップ

最後の学習会では「サトウさん」の子育て講演会を鑑賞しました。胸に刺さる言葉ばかりで泣きそうになったという声が多くありました。

一年を通して保護者同士の交流が深められ、楽しい中にも多くの学びがありました。参加、ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。

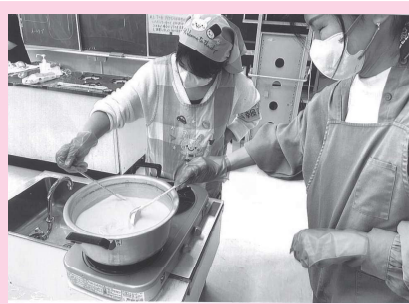
感慨深い一年になりました

さつきが丘小学校家庭教育学級 福田 祐子

今年度、五月より新型コロナウイルスが、五類感染症への位置付けに変更され、昨年度に比べ、より活発な活動ができました。

五月の第一回学習会・開級式では、上都賀教育事務所宮田先生による講話「親子のコミュニケーション〜自己有用感を高めるヒント〜」をいただきました。子どもに対する日頃の言葉のかけ方一つ一つが積み重なり、心を傷付けていることを知り、とても考えさせられる講話となりました。七月の「子育て交流のつどい」では、明治大学の諸富先生の講話を聴き、子どもと親がふれあうことで、子どもは安心して、自分から行動する自信がもてることを勉強させていただきました。

十月の第二回学習会・閉級式では、「こいしや食品」さんのご協力のもと、豆腐作りと湯波作りを行いました。時間の関係で、省略した部分がありました。家庭でも豆腐や湯波が作れることを知り、子どもと一緒に作ってみるのも、楽しいだろうなと感じました。



豆腐&湯波作り

今年度の三回の研修から、改めて、「子どもとふれあう」「子どもと一緒に」の大切さを感じました。

皆様のご協力により、無事に活動を終了することができました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

集える心をかみしめて

友友クラブ家庭教育学級 福井 公美子

友友クラブは学校支援活動などを行っている人を中心に集まっているため、第一回は「コミュニケーション・スクール」について上都賀教育事務所の宮田先生からお話を伺いました。本格的に始まった「コミスク」ですが、何か始めなくてはいけない訳ではなく、これまでの活動を継続していくことが大切とのこと、これからも楽しく活動を続けたいと思います。

第二回は4年ぶりにバスでの視察研修として、宇都宮の少年鑑別所に伺いました。鑑別とは、罪を犯した少年少女たちの状況を詳しく観察して分析し、今後を決めることです。職員の皆様がとても優しく丁寧な方ばかりで、ここに来た子どもたちが温かい大人に出会って、今後の人生を立て直すことを心から願いました。また、この日は午前中に大谷資料館の見学もあり、近くにありながら行ったことがない人もいて良い機会となりました。

第三回はそば打ち体験。講師は「円虹庵」の大沼誠氏です。まず講師が一通りそばを打ち、その後参加者が二人一組で協力しながら2回分のそばを打ちましたが、皆さん「あ・うん」の呼吸でできばきと進み、あつという間に二回分のそばが打ちあがりしました。

日常に戻りつつあり、久しぶりに会う人もいて、「集う」ことの楽しさを改めて感じる一年となりました。



そば打ち体験